

2024年 7月 練習計画 横浜室内合唱団										
日・曜\分	15分	30分	10分	30分	10分	30分	10分	30分	15分	会場 時間
15日 (月) 祝	発声	「いっしょに」を譜読みします	休憩	「さびしいカシの木」を譜読みします	休憩	「ジャマスルナ・ワルツ」を譜読みします	休憩	「その日のことを」「ある日ひとつの」を合わせます	愛唱歌を合わせます	寺尾地区センター 13:00~16:00
月日\分	15分	30分	10分	40分	10分	30分	15分			会場 時間
27日 (土)	発声	「沙羅」を譜読みします	休憩	「行々子」「ふるさとの青い空」を合わせます	休憩	「道」を合わせます	愛唱歌を合わせます			寺尾地区センター 13:00~15:30 (安井さん) <u>15:30~16:00 「総会」※</u>
(連絡事項) ○7月15日はいつもの土曜ではなく月曜祝日(連休最終日)のセッティングですのでご注意ください。 ○7月27日(土)の練習後に当合唱団としては5年ぶりに「総会」※を予定しておりますので、是非とも出席願います。 当団としては「総会」は、5年前の2019年8月に「夏合宿の話し合い」として開かれて以来となります。 翌2020年2月から新型コロナにより団活動休止となりましたが、2022年10月より有志による練習再開、 2023年1月より仮体制による正式練習としての位置づけ、同年6月より石原さんも参加、2024年1月からは (練習計画を発表し)新曲への取り組み開始・・・となり現在に至っております。 今回の「総会」では次の項目を確認したいと思います。 ○団の役割分担の確認 ○団活動の方向性の相談・確認(練習内容、練習場所、夏合宿、鶴見区合唱のつどい・・・どうする?) ○会計報告 ○その他 所属団員の確認 希望や意見の交換 (当日、総会に出席できない方で何か意見希望がある場合は、本配信メールの返信で石井までお寄せください。) 										

練習の記録(2024年5月31日)

於：寺尾地区センター 13時~16時

朝は雨だったが、練習時には上がっていた。

発声練習の後

- ①行々子 音とりをして合わせていった。高い音が多いので体力がいる。支えをしっかりとしないと良い音が出ない。
- ②沙羅 音とりをした。なかなか難しい。まだ、曲の全体像ははっきりしなかった。
- ③道 最初に「歩くリズムにのって」と書いてあるので、色々な歩く姿を表現しなければならないのだろう。[A]は四分音符92、[B]はMeno mosso 四分音符88、[C]はもとの速さに戻る。付点と3連符のリズムに気をつけながら音とりをした。きょうは[A]と[B]だけやっておいた。「空」と「河」も合わせた。
- ④ふるさとの青い空 最初に合わせて、その後部分的に音とりをした。中間部はリズムが難しいところがあって、丁寧に練習した。
- ⑤花季 歌ったことがない人もいましたが、曲の感じを知ってもらうのを目的として通した。
- ⑥苔の花 通した。
- ⑦なぎさ歩めば 通した。

出席者：飯田 土井 安中 齋藤 大石 石原(千) 熊王 佐伯 小形 眞形(泰) 石原(純) 石井 安井

出席者が多く、和やかに練習できた。あまり急がずにゆっくりと曲を仕上げたい。

記録者 眞形泰雄

↑ (前号で掲載できなかった5月度の「練習の記録」です)

練習の記録(2024 年 6 月 15 日)

於：寺尾地区センター 13 時～16 時

暑さが増してバスに冷房が入った。寺尾に勤めていたころ、バスが寒かったことを思い出した。その頃の臨港バスの冷房は強烈で、乗車すると眼鏡が曇った。

発声練習の後

- ① いっしょに 音とりをしながら合わせていった。不協和音と不協和音の間に協和音が入るような構成が面白いと言えばそうだが、木下牧子らしい造りなのだろう。音程が安定するようになったら、表現を加えると良い合唱に仕上がるだろう。
- ② さびしいカシの木 詩は「やなせたかし」で、その昔歌っていた「くもさん」を思い出した。雲に対する感情が少し似ていると思った。音とりをして進めた。①同様に木下牧子らしさが窺える。練習を重ねないと曲としてまとまらないだろう。
- ③ ジャマスルナ・ワルツ 難しいはないが、「大中恩」独特の音の動きがあるので、それに慣れればよいと思う。曲
- ④ その日のことを Adagio の部分のリズムと、Andante へ入る部分を中心に練習した。
- ⑤ ある日ひとつの 最初の Moderato の部分の、スタッカートとそうでない部分との違いを練習した。後半の Adagio の部分は、各パートがリズムを崩さずにどこで出てくるかを練習する必要がある。
- ⑥ 信濃の秋 通して歌った。暗譜した方がいいだろう。
- ⑦ 遙かな友に 通して歌った。暗譜した方がいいだろう。

出席者：飯田 土井 安中 齋藤 志村 石原(千) 熊王 小形 眞形(泰) 石原(純) 石井

和やかに練習できた。お互いに年取って筋肉が弱くなっているけれど、支えをできるだけ緩めずに歌うように心掛けたい。

記録者 眞形泰雄

(追記) 練習後、今後の日程と内容について係で検討した。

練習の記録(2024 年 6 月 29 日)

於：寺尾地区センター 13 時～16 時

蒸し暑さが増してきた。エアコンを 25 度にして練習した。

発声練習の後

- ① 道 [A]と[B]は前回音とりをしているので、今回は[C]の音とりをした。そのあと表現をつけてみた。特に怠け者の部分は、表現を大きくつけると面白くなりそうな感じがする。次回は、それを実行したい。
- ② 沙羅 なかなか優雅な詩で、実際の詩を見ないと感じが分からない。「林、音なく 日の暮は ゆめのごとし 眞玉 夕つゆ おもくして 沙羅の花ちる さゝら 沙羅の花 ほの黄色なる」
紙面の都合で横書きにした。音とりも難航し、大分和音がきれいに現れてきているが、なお十分な練習が必要だろう。詩を朗読して、そのリズムを感じることも大事だと思う。
- ③ 行々子 高い音の部分があるので、なかなか良い和音が作れない面がある。
「ふるさとの 河原の平に よしきりは鳴く 日ねもす鳴く 昔わが遊びし時と 變ることなし
よしきりは鳴く 日ねもす鳴く 耳いたく鳴く」 子どもの頃の思い出がうまく表現されるといい。
- ④ 空 河
「空」は表現をつけた。「あおい そらよ」のアルトパートが聞こえるように少し声量を増すようにした。次回はもう少し丁寧に表現をつけたい。「河」は流して歌った。割合良かった。
- ⑤ 愛唱曲 ピアノがついている曲を歌った。
花季 雨(水の命) なぎざ歩めば 風が(心の四季) 海の若者 よるのそら 夜の歌 大地讃頌 沼

参加者：飯田 安中 大石 石原(千) 熊王 小形 眞形(泰) 石原(純) 石井 安井

集中して練習できた。練習の始まりが 13 時 15 分だった。音楽室は 13 時から使えるので、時刻通り始まれば、15 時までの練習でも十分だと思う。集まり方、始まり方を見直す必要がある。

記録：眞形泰雄